

## 改定に向けた主な意見

改定に向けた主な意見として、以下の内容を取りまとめた。

- ・ 第2回まちづくり基本方針検討小委員会（8/27）における主な意見
- ・ 上記小委員会に欠席された委員の主な意見

### 1 まちづくり基本方針改定の方向性について

分類	意見
指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指標には①<u>まちづくりの状況を測る</u>、②<u>まちづくり基本方針が役割を果たせたかを測る</u>という二つの性格があると思う。</li> <li>・ ①の指標については、まちづくり指標の中から<u>アウトカム指標を中心に選んで設定するのが良い</u>のではないかと。</li> <li>・ ②の指標については、市町のガイドラインとして県と市町との信頼関係や相互理解という役割を果たせたかどうかを<u>チェックすることになり、ホームページからのダウンロード数や閲覧数、市町が策定する計画や方針への参考文献としての引用数などが指標として考えられる</u>。</li> <li>・ 市町へのガイドラインとしての役割という話に関連して、例えば中核都市レベルで内部に多数の職員がいる市と、人口数千人の町に同じ内容を求めるのは難しいと思う。</li> <li>・ 市町がやるかやらないかを選びやすいものにし、参考にした場合には報告を受けるようにするというやり方が良いのではないかと。</li> <li>・ 取組とアウトカムとの間の関係性を各市町の状況に合わせてコーディネートしてあげることにより、実効性が高まるのではないかと。</li> <li>・ 指標は、相対的な比較ができないと深みが出ないと思う。例えば、4つの地域それぞれのモデル地区やモデル市町を決めて、それらと比較をするという手法もあるのではないかと。</li> <li>・ 地域内の資本率や、地域内の会社が地元の会社なのかなど、<u>地元の資源の循環を測るような指標</u>もあると良い。</li> <li>・ 農村部の美しさや景観が今後はより重要になると考えているが、まちづくり指標では「住んでいる地域のまち並みはきれいだと思う人の割合」ぐらいでしか測れない。<u>景観の価値が分かる専門家が評価する仕組み</u>があるとよい。</li> </ul>

指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ別まちづくり指標のうち、設問が廃止された「自分らしい暮らし方ができている人の割合」のような観点の指標はあっても良いのではないか。<u>不便な点があったとしても、自分で選んだライフスタイルの中で自分らしい暮らし方ができているということは大切。</u></li> </ul>
県の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進事例を紹介するなどにより<u>市町同士が刺激し合う場をつくるのも県の役割ではないか。</u></li> <li>・いかに県が各市町と個別にコミュニケーションを図っているかが重要。</li> <li>・<u>市町同士や市町の担当者同士の横のつながりを強めるのも県の役割だと思う。</u></li> </ul>
テーマ設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自立と連携」の「連携」は、よりアクションにつながるキーワードの方がいいのではないか。</li> </ul>

## 2 めざすべき将来像について

分類	意見
全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・兵庫県の良さは、<u>4つの地域が近いところでバランスミックスしている</u>ことであるから、ある地点から4つの要素にアクセスしやすい、オプションが多い、いいとこどりができる、と言える。<u>まずはキャッチ（つかみ）としてそういった状況を伝えてから、その中身として4つの地域の話に入る方が、兵庫県の魅力を伝えられるのではないか。</u></li> <li>・もう少し戦略的に、強弱をつけた方が良いのではないか。4つの地域の複数にあてはまる部分があって特徴が見えづらいのであれば、<u>強く打ち出すべきところをもっと前に出して表現すれば良い</u>と思う。</li> <li>・将来像の見直しの方向については、1回目の検討小委員会に提示された「改定に向けた課題」や「改定に向けた主な論点」を踏まえて、考えていく必要がある。</li> </ul>
多自然地域の集落群	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移住者がどう活躍するかについての記述が多く挙げられているが、一方で、地域の生活の歴史や文化が置き去りになる懸念がある。<u>地域をこれまでどのように守ってきたかという生活の歴史や文化を伝えていく必要がある</u>ことにも言及すべきではないか。</li> </ul>

<p>多自然地域の集落群</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「都市部からの来訪者・移住者を誘引」という点をあまりに強調するのはどうなのか。本来は地域の住民主体であるべきだと思うので、もう少し平等な表現が良いと思う。あえて「<u>都市部からの</u>」と限定せず、ベースはあくまで<u>地域の人</u>であり、そこに色々なつながりがあるという方向性が良いのではないか。</li> <li>・<u>県が「村移り」を推進する</u>ような表現をして良いのか疑問である。どこにいても住み続けられるようにするのが行政の役割ではないか。市町がこれを盾にして積極的に推進するようなことにならないかが心配である。</li> <li>・「<u>村移り</u>」という言葉が「<u>集落をたたんでしまえば良い</u>」という考えにつながらないように、<u>表現に注意</u>してほしい。</li> <li>・<u>集落とケアやサポートを受けられる場所との二地域を拠点に自由に行き来して、集落を守りながら暮らせるなど、地域の人が暮らしの視点で集落に関わることができるような支援が必要</u>である。</li> <li>・都市部からの人を誘引するということが、無理に引き込むというのではなく、ライフスタイルや嗜好性の変化で多自然地域の集落群に魅力を感じて、進んで移住する人が多くなっているので、それを地域が受け入れて、<u>移住者と一緒に地域の文化を継承していく</u>という方向性が良いのではないか。</li> <li>・都市部から積極的に人を誘引することは必要だが、<u>住んでいる人を大事にする住民ファーストの観点も重要</u>である。</li> </ul>
<p>郊外住宅地</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来像で示されているのは、どちらかという元気な郊外住宅地を想定しているように思われるが、<u>そうでない住宅地をどうするか</u>なども考えていく必要がある。</li> <li>・例えば、買い物難民の課題は多自然地域の集落群よりも大きいのではないか。元気に頑張れそうな住宅地がある一方、<u>残していくのかどうかの検討が必要な住宅地もある</u>と思う。</li> <li>・テーマ別コンセプトについては、「<u>あらゆる世代の</u>」住民参画とし、若者から高齢者まで幅広い年齢層で進めていくことを表現したほうがよい。</li> </ul>

都市中心部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>都市中心部のコンセプトを見ても住みたいとは思わない。</u>特に若い世代にとっては、例えば「最先端」「チャレンジ」「進化し続ける」など、<u>攻める言葉がほしい。</u></li> <li>・ 都市中心部は県内と連携するだけでなく、大阪や東京、世界と連携する都市であってほしい。県内の他の地域とつなぐ場所でありながら、大都市や世界ともつながる「<u>ハブ都市</u>」といったイメージの方が魅力的である。</li> </ul>
-------	---

### 3 主な取組の方向性について

分類	意見
全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 景観について、無電柱化や電線の地中化についての言及があってもいいのではないか。</li> <li>・ 「安全・安心」や「環境共生」については建物などの<u>ハード整備だけでなく、建物のマネジメントの部分について考える必要がある。</u></li> <li>・ 既に課題として顕在化しているものとこれから県が市町に促したいことを分けて整理する必要があるのではないか。</li> <li>・ エリアとしての明らかな共通点がある項目については、<u>地域の独自の言葉をちりばめて、その地域らしさが浮かぶようにしてほしい。</u></li> </ul>
多自然地域の集落群	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「都市との交流による人手不足の解消」とあるが、<u>「都市」に限定する必要は無いのではないか。</u></li> </ul>
地方都市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「<u>ウォーカーブルシティ</u>」に関しては、大都市よりも地方都市の方が歩かない人が多いので、<u>地方都市の中心部の今後の姿も考えてはどうか。</u></li> </ul>
都市中心部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「都市と集落の連携による災害対応」は、多自然地域の集落群や地方都市には記載されているがその他の地域には記載がない。むしろ都市部こそ災害時に集落との連携により<u>助けられることがあると思うので、入れておいてもいいのではないか。</u></li> </ul>